西陵中・幌別西小 小中連携だより

発行：西陵中学校・幌別西小学校　小中一貫教育推進協議会　平成 30 年 11 月 10 日【第３号】

今年２回目の小中交流会を開催しました（11 月 6 日）

授業公開

西陵中学校と幌別西小学校の全教員が一堂に会する小中交流会。前半は、３つの視点（「学習規律」「課題の明確な把握と振り返り」「小集団での協同的な学習」）をもち、小学校の教員が中学校全学級の授業を見学しました。

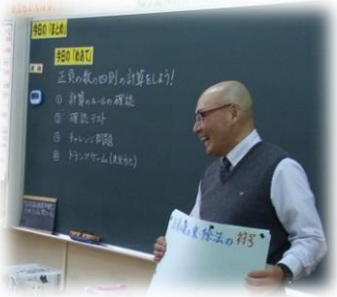
小学校の教員は授業参観で参考になった実践や取組、中学校の教員は小学校の教員から受けた指導や助言の内容を、児童・生徒の学力向上のために活かしていきます。

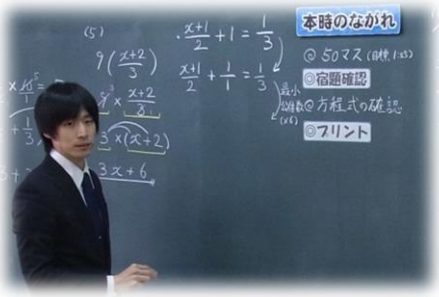
しっかりと学習に向かう姿勢が良かったです。英語の授業では、何度も発言、発話、発音させる機会があり、文字も同時に提示をしていたので、そのバランスがとても良いと感じました。発言チェックシートのような紙で、一人ひとりの発言の振り返りをしていて良かったです。

一つの活動を長くやるのではなく、小刻みにいろいろな活動をしたり、「チャレンジ問題」など生徒がワクワクするネーミングの活動をしたりしていました。マネしたいです。

板書が美しく、分かりやすくまとめられていたと思います。生徒の意見を中心に読みを進めることができていました。

どの授業も楽しそうに学習していました。そして、楽しいだけでなく、学習の展開に軽重をつけ、考えさせる場面、まとめる場面などがしっかり設定されていました。





特別支援学級では、答えが出てくるまで「待つ」という姿勢を大切にしていました。通常学級でも大切にしていきたいです。トランプを使ってマイナス・プラスの計算をするところは、小学校でも使えますね。

（ウラ面もあります）

バレーボールの授業では、ワンバウンドありのルールにより、プレーがつながるため、協力する態度が高まると思いました。

小学校に比べると（当たり前ですが）学習内容が多く、取り上げる量も板書も結構あるように感じました。小学校のうちから、楽しみながらも粘り強く課題に向かう姿勢を育てていきたいです。

研修（講話）

昨年度に引き続き、２回目の交流会では講師の先生をお招きし、両校が共通で抱える課題について研修を深めました。登別市立登別中学校教頭　山岸弘昇　先生に「不登校への対応の在り方を考える」と題したご講話をいただき、全国的な不登校の発生状況と不登校の要因、そして、ご自身の勤務校で実際に経験された、失敗談や成功例を交えながら、私たちの実践に役立つお話をしていただきました。

その子の興味・関心からシグナルを察知し、とく に強みや良さから解決の道筋を立てること、担任一人が抱え込むことなく学校全体で組織的に、さらにこうして小中の教員が一堂に会することができる本校区の強い小中連携も生かしながら、関係機関とも連携して取り組むことの大切さを再確認することができました。

閉ざされかけた心の扉を開くことはなかなか大変なことですが、山岸先生がおっしゃる通り、あせらず、あわてず、あきらめず、子どもと家庭に寄り添いながら、小中がともにタッグを組んで、根気強く関わり続けていきます。（以下は、講演を聞いた教員の感想の一部です）

●現在、不登校の生徒を抱えている私にとって参考になるお話でした。先生の熱意ある生徒への対応に、私自身も「まだできることはあるのではないか」と考えさせられることがたくさんありました。不登校生徒への対応は、迅速に、他の教員と連携して行っていくことの大切さを再認識し、今後の自分の生徒・保護者に対する対応に活かしていきたいと考えました。
●常に生徒 first で、全身全霊で生徒に向き合う先生の姿に心を打たれました。改めて、何かあったら電話ではなく、その日に家庭訪問することの大切さを再確認できました。「教育」とは「今日行く」という言葉も思い出しました。
●どんな状況でも、生徒と「関わり続ける」ことの重要性を改めて実感しました。その生徒の今はもちろん、これからの人生をどのように歩んでいけばよりよく生きていけるのかを考えて、今できることを行っていきたいと思います。
●不登校対策には人とのぬくもりある関わりが大切なことがわかりました。これから出会う生徒、今関わりを持っている生徒と１秒でも長く一緒にいたいと思います。
●先生のお話を聞いて刺激を受けたことが２点あります。１つ目は、子どもたちに注いでいる愛情の深さ、子どもたちに対する責任感の強さです。２つ目は、「教師はプロである」という言葉です。私たち教師は中学生にとって、おそらく親以外で一番身近な大人であり、影響力を持つ存在だと思います。自ら学び続けることで、良い大人の手本を示し、子どもたちにより良い影響を与えていきたいです。
●その子が社会に出た時の姿を思い浮かべながら、対話の中にある生徒の葛藤に耳を傾け、様々な可能性を見つける手助けをすることこそが大事であると学ばせていただきました。